



令和3年度

松浪小だより

第15号

学校教育目標……『豊かな心を持ち、自律して行動できる子』を育む学校

目指す子ども像…『・進んであいさつする子・自ら学び、自分の考えが言える子・人の話が聞ける子
・元気よく友だちと遊ぶ子・進んで仕事をする子』

理想とする学校像……「共に学び 共に歩み 共に創る」

- ①児童や教職員が生き生きする学校
- ②保護者や地域から信頼される学校
- ③教職員が互いに研ぎ合う学校

令和4年3月25日（金）発行

茅ヶ崎市立松浪小学校 校長 安倍 武雄

みんな本当に大きくなったね！

6年生が卒業して1週間。兄・姉と通っていた下の子たちも、近所で6年生に連れてきてもらった子たちも自分で学校に来ることができるようになってきました。「おはようございます」のあいさつをしても、「○○ちゃん来ないなあ…。そういえば6年生だったな！」と気づき、改めて152名の卒業生が巣立っていったことを実感します。

季節はまもなく春爛漫です。職員玄関前の桜も満開になりました。今日は修了式。一人一人のあゆみの大きさはそれぞれだけれど、どの子もみんな本当に大きくなったなあと思います。それは、ひとえに保護者の皆様が子供たちの体や心の状態を丁寧にみとり、ケアしてくださったからに違いありません。本当にありがとうございました。

本日、1年生から5年生には担任から「家庭への知らせ」を配りました。「家庭への知らせ」では学習面について1・2年生はそれぞれの単元目標を達成できているかどうかで、3～5年生は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から教科ごとにお知らせしています。これまで「学習と学校生活のようす」として文章表記でお伝えしていた部分については、より丁寧にお伝えできるよう、学期末面談でお伝えすることといたしました。

これら2回の面談を通して、学習面の成績のご説明と合わせ、学校生活全般のお子様のがんばりと、課題をお示しいたしました。私からお願いしたいのは、「家庭への知らせ」や「学期末面談」を参考に、子供たちの活躍を子供たち自身のことばで語らせてほしいということです。そして、保護者の皆さんから「がんばったね」「よくやったね」という声をかけてほしいということです。「○○はこんなことががんばったんだってね」「そうなんだよ、ぼくね…」とか、「○○の～が素敵だよって先生がほめていたよ」「そのとき、わたしは～な気持ちだったんだ…」というように、お子さんにその時の様子を思い出させ、その時のがんばりを保護者の皆さんからも認めてあげてほしいのです。そして「よかったね。とってもうれしいよ！」と一緒に喜んでほしいのです。同時に、担任から子供たちに課題をお伝えしている場合もあります。「～な面があります。～していくとよいと思います。」というようなお話があったら、子供たちと一緒に考えてあげてください。「先生はこう言っているけど、○○はどうしたらいいと思う？」「じゃあ、一緒に～～しようか？」というように子供たちが自分で決められるように促してほしいのです。

そうすることで、「あぁ、がんばってよかったなぁ」とか「やってよかった!」「自分は見捨てられていないんだ!!」「次もがんばろう!!!」という子供の前向きな気持ちを育てることができます。そして、それが「もっとがんばるぞ!」という子供の自発的な成長を促すことに直結していくと思うのです。

今週末、テレビを消して、ゲームやタブレットも一休みして、子供たちと一緒に学校のことをたっぷりお話してください。

地域からの贈り物

18日は卒業式でした。その日の朝、地域の方からうれしいサプライズが送られてきました。施設業務員が「新聞受けの下においてありました」と私に手渡してくれたのは、大きいポリ袋に丁寧にくるまれた紙製の手提げ袋でした。おそろおそろ開けてみると、それはそれはきれいな千羽鶴でした。そして、そこには次のようなメッセージが添えられていたのです。読み終えて、つい涙ぐんでしまいました。

松浪小学校の生徒のみなさん、教職員の方々へ

こんにちは。私は松浪小学校の卒業生です。コロナ禍で今まで通りの小学校生活をおくれない生徒のみなさん、今まで以上に負担のある中、生徒のために奮闘されている教職員の方々にはエールを送りたく思い、千羽鶴を折らせていただきました。

全ての生徒さんが無事に進級、卒業できますように...。心から願っています。

卒業生のみなさんへ

ご卒業おめでとうございます。コロナ禍の学校生活で、やりたかったのにできなかった行事等も沢山あると思います。私はコロナ禍の前に松浪小学校にいた者ですが、今も鮮明に思い出すのは、友達や先生との何気ない会話、おいしかった給食の味などです。何気ない日々の出来事にこそ、今の自分を強くしてくれると感じます。本当に6年間おつかれさまでした。

卒業式の2日前、5・6年生は引継ぎ式を行いました。この行事は、5年生が卒業式に参加できなくなったことで始まった行事です。式中こんなお話をしました。

「この行事の目的は、二つあります。一つは6年生が5年生に最後の手本を見せるということ。二つは5年生が6年生に最後の手本を見せるということ。それを「6年生はここまでできる」ということを5年生に見せるということ。それは、松浪小学校の伝統を引き継ぐといってもよいでしょう。

先輩から引き継いだ松浪小学校の6年生としての立派な姿を見せてください。もう一つは、5年生が最高学年としての決意をするということです。5年生のみなさんには、今日の6年生の姿を見て、自分たちはこれを越えてやるという決意をしてほしいのです。5年生が今の6年生を越えることができないのなら、松浪小学校は進歩しないのですから。6年生、5年生が松浪小学校の伝統を引き継ぎ、今年よりも来年が、来年よりも再来年がとよりよい松浪小学校を松浪小の子供たちが作っていくための式になることを期待します。」

松浪小学校の伝統はこうして脈々とつながっていくということを実感したできごとでした。本当にありがとうございました。心より感謝いたします。



当日は式次第の横に掲示させていただきました